

ドラム缶炭窯で
竹炭を作ろう
ワークショップ
事業報告

「住み続けられる地域を目指して」

特定非営利活動法人
きないやせきぜん
理事 吉井 健

私たちが住んでいる関前諸島は、岡村島、小大下島、大下島の3つの小さな島からなる愛媛県今治市の離島地域です。過疎高齢化が激しく、人口は3島合わせて約400人、高齢化率は70%を超えています。豊かな自然に恵まれている一方、60代までの若い世代が非常に少なく、また離島地域ゆえの不便さも抱えている地域です。

そこで、地域の様々な困り事に対応し、「住み続けられる地域づくり」をしていくために、地域の有志の方々とイターン移住者が力を合わせ、特定非営利活動法人きないやせきぜんを設立しました。草刈りや雑木の伐採、空き家やお墓の管理等、地域の様々な困り事を引き受けています。また、映画祭などのイベントを企画・開催して地域の活性化を図る活動も行っています。

そのような活動の一環として、まちづくり活動アシスト事業のご支援をいただいて「ドラム缶炭窯で竹炭を作ろうワークショップ」を開催しました。関前地域でも竹の増殖が問題になっています。一方、この地域には貴重な古民家が数多く残っていますが、その多くが今は空き家となつて管理が行き届かなくなり、腐朽

が進んでいます。その最も大きな原因の一つが、床下の湿気による腐朽菌やシロアリの繁殖ですが、そこで考えた



煙を観察しながら、薪をくべる

のが、竹を伐採して炭にし、それを床下除湿材として活用する取り組みです。建材として流通している床下除湿用の炭は高価ですが、自分たちで竹炭を作れば費用は、はるかに安く済みます。また竹炭には他にも様々な利用法があるので、自分たちで炭を作つて活用する動きが地域の中で広まったら、という思いもありました。

今回のワークショップでは、高知大学の今安清光先生を講師に招き、ドラム缶等の身近な物を使って、誰でも簡単に炭を焼ける方法を学びました。参加者は、地域の方と、東京、松山、西予、大三島

から、約20名が集まりました。煙突から出る煙の様子を見ながらの作業は、竹や木と対話しているようで、とても奥深さを感じられる作業でした。みんなで協力して作業する時間も、休憩でお茶を飲みながら会話する時間もとても楽しく、地域の方々と他の地域からのお客さんとの間で温かい交流が生まれたことも、貴重な成果だったと思います。

今後は、今回学んだ技術を活かして、続けて2回目、3回目と炭を焼いて、技術を高めていきたいと考えています。2回目の予定は既に決まっています。リピーターの方や新規の方から参加希望のご連絡をいただいています。

炭を焼く通じて人の輪が広がりをみせていることに、とても明るい可能性を感じています。



炭の取出し